

(1) 口承による伝統及び表現

この分野には、幅広い表現が含まれています。

例えば、ことわざ、なぞなぞ、物語、童謡、伝説、神話、叙事詩、呪文、祈禱文(きとうぶん)、歌謡、芝居などです。

口承による伝統・表現は、しばしば知識、文化、社会の価値観と集団の記憶の伝達手段として、文化の生命力を維持するには不可欠な役割を果たしています。

しかしながら、他の分野の無形文化遺産と同じく、この分野は、急速な都市化、広範囲の移民、工業化と環境変化により、絶滅の危機にさらされています。

口承伝統・表現を保護するためにもっとも重要なのは、口承伝統・表現が社会の日常における役割を維持することです。作品を保護する方法だけではなく、コミュニティが自由に自分たちの文化遺産を披露できる過程に焦点を当てるべきだと考えられています。



【中華人民共和国の無形文化遺産】

ケサル叙事詩の伝統

©UNESCO/Yang Enhong



【中華人民共和国
の無形文化遺産】

トン族の大歌

©UNESCO/ Yuan Gang

(2) 芸能

この分野には歌、楽器音楽や踊りから、伝統的演劇、パントマイム、歌の韻文（いんぶん）などが含まれます。芸能には、人間の創造性を反映する文化的表現がたくさん含まれています。器具、工芸品、空間なども無形文化遺産の定義に含まれていますが、芸能の分野では、それは楽器、仮面、衣装、身体の装飾、演劇の舞台装置、舞台道具などが該当します。そして、芸能が上演される特別な空間は、文化的空間と考えられます。

現在では、多くの芸能は劇場における上演になっています。それに伴い、現在では、伝統的芸能の活動は、財政面では赤字に陥っているところも多くなっています。

また、芸能分野に分類される音楽、舞踊、演劇などは、観光の場面では、重要な文化的特色とされます。それは多くの見学者と利益をもたらすと同時に、伝統的な芸術の商品化というマイナスの影響をもたらすこともあります。



←【日本の無形文化遺産】能楽

©UNESCO/Schmitt, Isabelle

【中華人民共和国の無形文化遺産】

粵劇（えつげき）

↓ ©UNESCO/Yanlan liang



【大韓民国の無形文化遺産】

男寺党（ナムサダン）ノリ

©UNESCO

→



(3) 社会的慣習、儀式及び祭礼行事

社会的慣習、儀式、祭礼行事は、コミュニティや集団の生活を構成する慣習的な行為であり、その構成員に共有され、ほとんどの構成員と関わりを持っています。それらを実践することを通して、人々に集団や社会の一員としての同一性を再確認させることに重要な意味を有します。

儀式や祭礼行事は、常に特別な時間と空間で行われ、コミュニティの世界観や歴史に関する側面との関連性が強いです。無形文化遺産保護条約では、独特な社会的実践、特に社会の同一性や過去との継続性を強化するものが優先されます。

この分野には、色々な形のものが含まれています。例えば、礼拝、出生・結婚・葬式など人生の節目に関わる儀礼、伝統的なゲームとスポーツ、親族と親族に関わる行事、居住パターン、料理伝統、季節の行事などです。表現方法としても、特別なジェスチャーと言葉、吟唱（ぎんしょう）、歌謡、踊り、特別な衣装、行進、動物のいけにえ、特別な料理など、多彩なものになっています。



【トルコ共和国の無形文化遺産】カラギョズ ©UNESCO/Ministère de la culture de Turquie



【中華人民共和国の無形文化遺産】
端午節
〔ドラゴンボートフェスティバル〕
©UNESCO/Wu Zhijian

(4) 自然及び万物に関する知識及び慣習

自然及び万物に関する知識及び慣習には、社会が自然環境とのやり取りの中で発達してきた知識、ノウハウ、技能、実践、説明などがあります。

自然、万物に関するこれらの考え方は言語、口承伝統、ある場所に対する愛着の感情、記憶、靈感と世界観などの形で表現され、社会の価値観や信仰に強く影響を与え、多くの社会的実践と文化的伝統の根幹となっています。同様に、自然環境とコミュニティの世界観によっても形づくられていきます。

この分野は、伝統的な生態学の知恵、土着的な知識、動植物に関する知識、伝統的な治療法、宗教、信仰、原始的な儀礼、宇宙観、社会組織、祭礼、言語及び視覚芸術などなど、多様な領域を含んでいます。

しかし、このようにコミュニティの文化と同一性の中核に位置する伝統的な知識と実践がグローバル化によって、大いに脅かされています。



【ウズベキスタン共和国の無形文化遺産】 カッタ・アシュラ
(人々の愛情から、自然や宇宙に関する哲学や技術まで、幅広い内容を含む伝統的な歌)

©UNESCO/Rustambek Abdullaev

(5) 伝統工芸技術

伝統工芸技術という分野は、無形文化遺産の中で、もっとも有形的な特徴を持っている分野と言えるかも知れません。しかし、無形文化遺産においては、その作品（工芸品）自体より、作品を作る技能や知識に焦点が当てられます。保護も、作品の保存というよりも、職人が継続的に作品をつくり、その技能と知識を他の人、特にコミュニティ内の人に伝授することを奨励するところに重点が置かれます。

伝統工芸技術には、たくさんの表現があります。道具、衣服とアクセサリ、祭礼や芸能用のコスチュームと道具、貯蔵容器、貯蔵・運搬・保存用品、装飾品や儀礼用品、楽器や日常用品、遊びと教育用のおもちゃなどです。作品の種類だけ必要とされる技術も多種多様にあります。奉納用の紙細工を作るような繊細で、手の込んだ技術もあれば、丈夫なかごや分厚い毛布を作るような忍耐と力の必要な技術もあります。



【日本の無形文化遺産】

石州半紙：島根県石見地方の製紙

©UNESCO/ Sekishu-Banshi Craftsmen's Association



【中華人民共和国の無形文化遺産】

宣紙（画仙紙）の伝統的な製法

©UNESCO/ Huang Feisong



【インドネシア共和国の無形文化遺産】

インドネシアのバティック

©UNESCO/ Gaura Mancacarifadipura



【中華人民共和国の無形文化遺産】中国剪紙（切紙細工） ©UNESCO/ Qi Xiumei